

目的 昨年本学会で神戸市西区押部谷町の在宅老人と兵庫県多可郡八千代町の養護老人ホームの老人の食事に対する関心度・満足度について報告したが、今回は嗜好及び喫食状況が食事の満足度に影響を与えているか、また生活環境とのかかわりについて検討する。

方法 神戸市西区押部谷町の在宅老人94名（以下在宅老人）については、記入式留置き調査と聞き取り調査を行ない、回収率は94%であった。一方、兵庫県多可郡八千代町の養護老人ホーム（以下老人ホーム）については、面接聞き取り調査を行った。

結果 食事時間は、在宅老人では朝食午前8時頃、昼食正午、夕食午後7時頃が多く、ほぼ規則正しく食事をしていった。老人ホームも朝食・昼食は在宅老人と同じ時間にされていたが、夕食は午後5時で、在宅老人より少し早い規則正しく食事されていた。喫食時間の長さは、老人ホームでは朝、昼、夕の3食共10～15分と非常に短かく、黙って食事しており、在宅老人は朝食・昼食を1人で食べている者が約30%、夕食は約68%の者が家族と共に話をしながらゆっくりと食事していた。また、在宅老人では残食が少なかったのに反して、老人ホームでは昼食・夕食を全部食べる者が50%前後で、特に女性の残食が多くみられた。その理由として「量が多い」「きらいなものがある」ということがあげられていた。

嗜好については、両者共に薄味を好み、野菜類・米が好きで、老人ホームでは好き嫌いの多い者が多く、油、こいものを好む者が多くみられた。